

平成 25 年度事業計画

自 平成 25 年 4 月 1 日

至 平成 26 年 3 月 31 日

公益財団法人 日 本 棋 院

東京都千代田区五番町 7 番地 2

目 次

はじめに

I 囲碁普及事業（公益目的事業1）

- 1 棋戦事業
- 2 棋士育成事業
- 3 囲碁対局環境の提供
- 4 囲碁普及と囲碁指導
 - 4-1 青少年等への囲碁普及
 - 4-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導
 - 4-3 海外への囲碁普及
- 5 段級位認定
- 6 囲碁大会の開催
 - 6-1 青少年対象の囲碁大会の開催
 - 6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催
 - 6-3 国際囲碁選手権の開催及び海外囲碁大会等の協力
- 7 表彰
- 8 囲碁関係情報提供
- 9 囲碁殿堂資料館
- 10 各拠点での活動
 - 10-1 八重洲囲碁センター
 - 10-2 関西総本部
 - 10-3 中部総本部

II 収益事業

- 1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）
- 2 不動産賃貸事業（収益事業2）
- 3 販売品、書籍事業（収益事業3）

III 管理部門

- 1 受取寄付金
- 2 コンプライアンス

はじめに

日本棋院は、日本の伝統文化である棋道の継承発展と普及振興を図るために、棋戦の開催や棋士の育成及び囲碁愛好者を対象とする囲碁指導、棋力認定、囲碁情報提供などの事業を国内外で実施する。

平成 25 年度における事業計画及び予算は次の通りとする。

I 囲碁普及事業(公益目的事業 1)

1 棋戦事業

棋戦は、囲碁の歴史を創造する場であり、棋道の研鑽と発達に重要な役割を果たしている。棋戦の様子は、テレビ・インターネットで中継され、全国の囲碁愛好者の棋力向上と囲碁文化の振興に寄与している。また、地方で開催される挑戦手合や棋戦では、棋士と地元の囲碁愛好者や子どもたちの交流の場として、対局を直に見る機会を設けるほか、解説会や指導碁等、ファンイベントを同時に開催する。海外棋戦やインターネット棋戦等を含めた平成 25 年度予定の棋戦概要、共催団体等は以下の通りである。

(1) 棋聖戦 (第 38 期 読売新聞社)

予 選：全棋士が参加し、リーグ戦入り（4 枠）をかけたトーナメント戦を実施。

リーグ戦：2 リーグ制。各リーグ 6 名の総当たり戦を実施。

各リーグ 1 位が棋聖への挑戦権をかけて一番勝負。

なお、各リーグ陥落者 2 名の計 4 名は来期予選からの出場。

挑戦手合：七番勝負（4 勝先取）を実施し棋聖位を決定。敗者は来期リーグ戦出場。

(2) 名人戦 (第 38 期 朝日新聞社)

予 選：全棋士が参加し、リーグ戦入り（3 枠）をかけたトーナメント戦を実施。

リーグ戦：9 人による総当たり戦を実施し第 1 位者が挑戦者になる。

なお、リーグ陥落者 3 名は来期予選からの出場。

挑戦手合：七番勝負（4 勝先取）を実施し名人位を決定。敗者は来期リーグ戦出場。

(3) 本因坊戦 (第 68 期 毎日新聞社)

予 選：全棋士が参加し、リーグ戦入り（4 枠）をかけたトーナメント戦を実施。

リーグ戦：8 人による総当たり戦を実施し第 1 位者が挑戦者になる。

なお、リーグ陥落者 4 名は来期予選からの出場。

挑戦手合：七番勝負（4 勝先取）を実施し本因坊位を決定。敗者は来期リーグ戦出場。

(4) 天元戦 (第 39 期 新聞三社連合)

予 選：全棋士が参加し、本戦出場 28 名 + α をかけたトーナメント戦を実施。

本 戦：シード棋士が加わり天元への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3 勝先取）を実施し天元位を決定。敗者は来期本戦から出場。

(5) 王座戦 (第 61 期 日本経済新聞社)

予 選：全棋士が参加し、本戦出場 16 名の枠をかけたトーナメント戦を実施。

本 戦：シード棋士が加わり王座への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3 勝先取）を実施し王座位を決定。敗者は来期本戦から出場。

(6) 碁聖戦 (第 38 期 新聞囲碁連盟)

予 選：全棋士が参加し、本戦出場 24 枠をかけたトーナメント戦を実施。

本 戦：シード棋士が加わり碁聖への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負 (3 勝先取) を実施し碁聖位を決定。敗者は来期本戦から出場。

(7) 十段戦 (第 51 期 産経新聞社)

予 選：全棋士が参加し、本戦出場 16 枠をかけたトーナメント戦を実施。

本 戦：シード棋士を含む 20 名で十段への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負 (3 勝先取) を実施し十段位を決定。敗者は来期本戦から出場。

(8) 竜星戦 (第 22 期 囲碁将棋チャンネル)

予 選：全棋士が参加し、本戦出場 96 名をかけたトーナメント戦を実施。

本 戦：96 名を 8 組に分け勝ち抜き戦の後 16 名によるトーナメント戦を実施し優勝者を決定。CS 放送 (囲碁・将棋チャンネル) で放映。

(9) NHK 杯テレビ囲碁トーナメント戦 (第 61 回 NHK)

選抜棋士 50 人によるトーナメント戦を実施し優勝者を決定する。

(10) テレビ囲碁アジア選手権 (第 25 回 NHK・KBS・CCTV)

日本、韓国、中国 3 カ国が持ち回りで開催。

前年度優勝者と (NHK 杯、KBS 杯、CCTV 杯) 優勝、準優勝者、各 3 名の

計 7 名によるトーナメント戦を実施し、優勝者を決定する。第 24 回は韓国開催。

第 25 回は日本で開催の予定。

(11) 新人王戦 (第 38 期 しんぶん赤旗)

25 歳以下の初段から六段までの棋士で予選を行い、前期優勝者を含む 33 名によるトーナメント戦を実施する。優勝決定三番勝負出場者 2 名を選出し優勝者を決定。

(12) 阿含桐山杯全日本早碁オープン戦 (第 20 期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗)

アマチュア 20 名を含む全棋士で予選を行い、予選通過者とタイトル保持者の計 16 名で本戦トーナメントを実施し、優勝者を決定する。(決勝戦は京都開催)

(13) 阿含桐山杯日中決戦 (第 15 期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗)

日本と中国の桐山杯優勝者が両国交互で日中決戦を実施し、優勝者を決定。

第 14 期は日本開催。第 15 期開催は、中国で開催の予定。

(14) 女流本因坊戦 (第 32 期 共同通信社)

予選を勝ち上がった 16 名によるトーナメント戦

挑戦手合：五番勝負 (3 勝先取) を実施し女流本因坊位を決定。

(15) 女流名人戦 (第 26 期 産経新聞社)

予選を勝ち上がった 7 名がリーグ戦を行い 1 位が挑戦者となる。

挑戦手合：三番勝負 (2 勝先取) を実施し女流名人位を決定。

(16) 女流棋聖戦 (第 17 期 NTT ドコモ)

予選を勝ち上がった 16 名によるトーナメント戦。

挑戦手合：三番勝負 (2 勝先取) を実施し女流棋聖位を決定。

本戦、挑戦手合は CS 放送 (囲碁・将棋チャンネル) で放映。

(17) 広島アルミ杯・若鯉戦 (第8期 広島アルミニウム工業)

30歳以下、六段以下の棋士で予選を行い、16名(前期優勝者、準優勝者はシード)によるトーナメント戦。本戦は広島で開催され優勝者を決定。

(18) 王冠戦 (第54期 中日新聞社)

中部総本部所属の棋士で予選を行い12名によるトーナメント戦。優勝者が挑戦手合一番勝負に出場。

(19) マスターズカップ (第3回 エステー・フマキラー)

50歳以上の現役七大タイトルホルダー及び経験者と予選勝ち抜き者4名計16名によるトーナメント戦を実施し優勝者を決定。

(20) おかげ杯 (第4回 濱田総業)

30歳以下の棋士(新入段含む)で予選を行う。16名(前期優勝者シード含む)によるトーナメント戦。本戦は伊勢市で開催され優勝者が決定。

(21) 海外棋戦

①LG杯、三星火災杯、農心杯(韓国)、春蘭杯、百霊杯、黄竜士双登杯、穹窿山兵聖杯世界女子囲碁選手権、華頂茶業杯世界女流団体選手権、丙級リーグ(中国)、応氏杯(応昌期囲碁教育基金会)、国際新鋭対抗戦(日中韓台で4年に1回の持ち回り)、等の海外棋戦に参戦する。

②海外棋戦の参戦にあたっては、「日本の代表として一丸となって戦う」という強い動機づけをもったナショナルチームを平成25年度より編成し、日本の棋士の海外棋戦における成績向上を図ることとする。

本チームは監督、コーチ並びに賞金ランキング上位者、海外棋戦における成績優秀者、新人王等、及び女流棋士ランキング上位者の中から選出される代表選手により編成する。

2 棋士育成事業

棋士をめざす青少年の養成機関として院生研修を実施するとともに、国際棋戦での活躍に向けて若手棋士の育成を行う。

(1) 院生研修

毎土・日曜日(月8日間)院生研修を実施する。師範の指導のもとクラス別に対戦し、毎月の成績によりクラスの昇降級を行う。棋士採用試験を経て棋士となる。また、院生研修日に、タイトル棋士、リーグ入り棋士による解説と検討指導を実施するほか、毎週火、水、金 午後8時より9時30分に、院生とネット対局「幽玄の間」で棋士が対局指導を行う。また、その内容は一般公開する。

(2) 若手棋士育成

①若手棋士育成イベントの実施(週刊碁主催 中野杯)

20歳以下の若手棋士および院生らによる棋戦。参加人数は32名から40名程度。今年度は第10回、8月に予選を行い、決勝戦は11月頃実施。

②海外棋戦への若手棋士の挑戦(三星火災杯、LG杯、百霊杯)

海外棋戦は予選からオープン戦となり、誰でも、参加できるようになった。特に若手棋士の挑戦を促し、韓国、中国の棋士との対局を通じて国際感覚を身

つける経験を積み重ねていく。

(3) アジアインドア&マーシャルアーツゲームズ

第17回のアジア競技会（2014年に開催）のプレ大会として、2013年6月29日～7月6日までの日程で韓国仁川において開催される。

本大会の主催者はアジアオリンピック評議会（OCA）であり、日本オリンピック委員会（JOC）に日本囲碁連合（日本棋院、関西棋院、日本ペア碁協会）として団体登録のうえ若手棋士を主体に参加。

3 囲碁対局環境の提供

日本棋院の各施設において一般対局場を開設する他、インターネット通信対局「幽玄の間」を開設し、誰でも囲碁が楽しめる環境を提供して囲碁愛好者の棋力増進に寄与する。

(1) 一般対局室の開設

東京本院、八重洲囲碁センター（6月に東京交通会館ビルへ移転）、関西総本部、中部総本部の各施設において、対局場を開設し、「級位者の日」、「有段者の集い」などの対局を組合せるほか入門者向けのコーナーを設けるなど誰でも囲碁を楽しめる環境を提供する。

(2) インターネット対局サイト「幽玄の間」

あらゆる世代の囲碁愛好者が、パソコン及びスマートフォン・タブレット上で手軽に対局を楽しめる環境を提供する。日本のみならず、韓国・中国・台湾などの東アジアさらにヨーロッパ、北米などの世界の囲碁ファンとコミュニケーションの場が広がりをみせている。平成25年度は、利用者による新規大会の実施や入門・初心者向けの新サービス提供などを実施することにより、囲碁普及における中核的な事業として強化していく。

(3) 貸室の提供

囲碁愛好者の大会やセミナー等の開催に合わせ、ホールや和室等の貸室を提供するほか、対局時計や解説用大碁盤等の貸し出しを行い、職域大会や地域囲碁大会等の利用に応じる。

(4) 海外囲碁センターの支援

欧州（1カ所）、北米（2カ所）、南米（1カ所）に保有する囲碁センターについて、ニューヨークを除く3カ所を引き続き現地の囲碁普及団体に貸与し、現地の囲碁普及活動を支援していく。

ニューヨーク碁センターについては、今後の在り方を検討中である。

4 囲碁普及と囲碁指導

囲碁は、集中力・認識力・想像力・コミュニケーション力の向上に優れ、自由な発想と創造性を育むとともに、脳の活性化や生きがいの形成、人と人とのふれあいなどにも大いに役立つことが福祉、医学、教育界等で認知されてきている。

また、平成17年度から研究をスタートした「囲碁と脳に関する研究」（東北大学）でも「囲碁は、子供の自己抑制力を伸ばす」ことが明らかとなっている。
囲碁の素晴らしさを幅広い世代へ伝えるため、今後も更に普及活動を推進する。また、すべての囲碁愛好者の棋力向上と囲碁文化を普及するため、棋士による指導のほか、普及指導員、

学校囲碁指導員による囲碁指導を全国で展開する。

4-1 青少年等への囲碁普及

囲碁が青少年の健全育成に寄与し、学校教育に役立つことへの理解を求める活動を強化するために、地方自治体・教育委員会・学校と協力体制をとり、地域に密着した囲碁普及事業を広く展開する。

(1) 囲碁入門・初級教室の実施

①全国の小・中学校で入門囲碁体験教室を開催

棋士等を派遣し指導を行う。また、現地での継続的な開催を支援する。

②ジュニア教室の開催

東京本院、八重洲囲碁センター（6月に東京交通会館ビルへ移転）、関西総本部、中部総本部の各施設にて定期的に棋力に応じた教室を開催する。

(2) 学校教育への囲碁導入

①「総合学習」伝統文化体験学習の枠を使った正課授業及び部活動等への囲碁導入支援

②学校囲碁指導員制度の拡充及び指導員養成とその派遣

③文部科学省「放課後子どもプラン」の中での囲碁導入推進

④高等学校に於ける日本の伝統・文化としての囲碁の授業の導入推進

⑤囲碁少年少女育英資金を有効活用し、学校教育への導入の際の棋士または指導員の派遣、囲碁大会、用具支援を行う。

(3) 学校囲碁指導員講習会の開催

学校教育の中に囲碁普及を拡充するため、また、指導者を養成するため、財団法人JKAの青少年健全育成補助（予定）を受け、学校囲碁指導員講習会を全国で展開する。（平成24年度16会場で実施。平成25年度も16会場での開催を予定）

(4) 大学での囲碁授業の展開

①平成24年度に、東京大学、早稲田大学、慶應大学、東邦大学、青山学院大学、埼玉大学、琉球大学の7大学に拡大した囲碁授業は、平成25年度において、一橋大学、福山大学を始めとした大学に拡大され、実施予定または検討中である。

②大学での囲碁授業に講師として棋士を派遣し支援を実施する。

(5) 法人賛助会員の維持・拡大

法人賛助会員は、各企業の社会貢献活動として、日本棋院が行う普及活動にご支援いただくもので、子供たちへの囲碁普及、若者の囲碁の才能の発掘と育成、囲碁による高齢者の健康増進等の囲碁普及に有効に活用しているおり、会員の維持・拡大を行う。

4-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導

囲碁のすばらしさを伝え、囲碁を知らない方への入門指導、囲碁愛好者の棋力向上に向けた指導を行い、囲碁を日本における重要な伝統文化の一つとして継承する。

(1) 囲碁学校

日本棋院の各施設において、入門者から高段者まで様々な棋力の方を対象とした囲碁

学校を常時開設。棋士による講座・解説を実施する。

(2) 指導碁

日本棋院の各施設において、指導碁を担当する棋士をほぼ毎日常駐させ、希望すれば入門者から高段者まで直接指導が受けられる体制をつくり、囲碁愛好者の棋力向上に努める。

(3) ネット指導碁

日本棋院が運営するインターネット対局サイト「幽玄の間」上で棋士による指導碁を実施している。ネットの特性で遠隔地にお住まいの囲碁ファンも気軽に指導碁を受けられたり、指導碁の講評を繰り返し見ることが出来る機能により好評を博している。

(4) 棋士派遣

法人・個人を問わず全国各地からの要請により、棋士の派遣を行う。主な派遣活動として、大会審判、指導碁、講演・講座、入門教室等を行う。棋士派遣は国内で約800件が見込まれる。

(5) 囲碁未来教室の開催

雑誌「囲碁未来」を教材として使用し、要望のあった各地の支部等で囲碁未来教室を開催。指導員及び棋士を派遣し支援する。

(6) 囲碁愛好者との連携強化

より多くの囲碁愛好者との連携を深めるため、各県本部の協力を得て、6箇所の県にてイベントを開催する。棋士を派遣し、囲碁愛好者と棋士の交流を深める。イベントを通して囲碁人口の拡大、個人・支部会員等の維持拡大を図る。

①個人、支部会員の維持・拡大

②法人会員の維持・拡大

③支部の活性化

囲碁普及と各地の囲碁愛好者の棋力向上を目指し、支部代表者懇談会を全国8箇所で開催する。現地の要望、提案等意見交換を行うとともに、地域の「絆を作りだす力」としてのコミュニティーづくりとしても支部活動を強化していく。

特に、地方の団塊の世代のシニア層を対象とした入門教室を実施し、会員の新規加入、後継者育成等を推進し、活性化を図る。

4-3 海外への囲碁普及

文化交流を目的に囲碁を海外へ紹介するとともに、マインドスポーツの一つとして、他国の囲碁団体と協調し、囲碁人口の拡大を図り、現地囲碁愛好者の棋力向上に寄与する。

(1) 国際囲碁連盟（IGF）との連携

日本棋院は、国際囲碁連盟（IGF）と連携し、世界各国への囲碁の普及と世界の囲碁界の組織化に努める。

(2) 文化交流使の活動を支援

文化庁の「文化交流事業」の一環として、海外の人々に日本文化への理解を深め日本と外国の文化のネットワーク形成・強化に資するため、「文化交流使」として派遣する棋士の活動を支援する。

(3) 棋士の海外派遣

各官公庁・民間団体等の支援を得て、棋士を海外に派遣し、囲碁文化の紹介と入門指導や現地高段者への講座を行うなど、囲碁文化普及と棋力向上に努める。

5 段級位認定

段級位の認定は棋力の到達度の証明となるもので、対局を行う際にはハンディキャップが付与され、棋力の差がある者同士の対局でも勝敗を競うことが可能となる。

(1) 段級位認定大会

今年度も全国各地で認定大会を開催する。

(2) 紙上認定

日本棋院発行の碁ワールド、囲碁未来、週刊碁あるいは、一般紙に掲載される認定問題やホームページ上の認定問題を掲載し、段級位認定を行う。

(3) インターネット認定

インターネットでの「幽玄の間」を活用した、レーティングポイントによる段級位認定を行う。(平成24年12月より実施)

6 囲碁大会の開催

各都道府県において、現地の囲碁愛好者が運営する日本棋院県本部あるいは県支部連合会と連携し、日本棋院が認可した約665の支部の協力を得て、囲碁大会の主催、後援等を行う。

6-1 青少年対象の囲碁大会の開催

高校生以下を対象とした4つの全国大会及び地区大会を開催し、また、各県や団体が開催する子ども大会への協力・後援を積極的に行なう。

(1) 第34回 文部科学大臣杯 少年少女囲碁大会

各県大会を勝ちあがった選手による全国大会を7月30日～7月31日の2日間、東京の日本棋院で開催予定。地方大会においては多くの会場での開催を呼びかけ、参加校、参加人数増を目指す。全国大会は小・中学生それぞれ約100人が出場予定。

(2) 第10回 文部科学大臣杯 小・中学校囲碁団体戦

全国大会は7月28日～29日の2日間、東京の日本棋院で開催予定。小・中学生それぞれ1チーム3名編成の学校単位のチーム団体戦で128校が出場予定。＜財団法人JKAの青少年健全育成補助（予定）＞

(3) 第37回 文部科学大臣杯 全国高校囲碁選手権大会

昨年度に引き続き地方大会においては、多くの会場での開催を呼びかけ、参加校、参加人数増を目指す。全国大会は7月23日～25日の3日間、東京の日本棋院で開催予定。約450人が出場の予定。＜財団法人JKAの青少年健全育成補助（予定）＞

(4) 第3回くらしき吉備真備杯こども棋聖戦

平成23年から、倉敷市と読売新聞社との共催でスタートした大会。都道府県大会において選抜された小学生低学年の部48名、小学生高学年の部48名の計96名がこども棋

聖の称号をかけて競う。開催は、12月14日～15日、倉敷市にて開催の予定。

(5) 第2回ロッテこども囲碁大会

中学生以下のこどもを対象に5月6日、日本棋院で開催予定。9路盤、13路盤、19路盤の使用がこどもたちの人気を呼び、1,000人以上が参加予定。

(6) その他の大会を継続開催

- ・ジュニア囲碁大会
- ・ジュニア囲碁パーク

6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催

多数の協賛会社のご協力を得て、各種の全国大会や地方大会、地域独自の大会を開催予定。今年度の主な大会は以下の通り。

(1) 宝酒造杯クラス別チャンピオン戦

級位戦から名人戦までの9クラスでそれぞれチャンピオンを決める大会。全国9ブロック、11の地方大会を開催し、12月8日に京都で全国大会を開いてチャンピオンを競う。

特に、今年9月の東京大会では、東京国際フォーラムで約1,000名の大規模大会を予定。

(2) 第56回全日本女流アマ選手権戦

各県大会を勝ち上がった選手128名が3月15日～16日、日本棋院で行われる全国大会で日本一を競う。

(3) 第51回女流アマ都市対抗戦

アマチュア碁界で最大規模の都市対抗戦。

1チーム5名の団体戦。10月2日～3日の2日間、鳥取県倉吉市で開催予定。全国からの参加選手は約700人～800人を予定。

(4) 第13回内閣総理大臣杯全国アマチュア団体囲碁選手権

内閣総理大臣杯・全国アマチュア団体囲碁選手権は、1チーム3名編成であれば誰でも参加できる団体戦。東京と大阪の2会場で開催され、2会場の優勝チームは東京で決勝戦を行い、勝利チームに内閣総理大臣杯が授与される。

(5) 都道府県民まつりの開催

①世界アマチュア囲碁選手権日本代表決定戦 県予選

「世界アマチュア囲碁選手権戦」の国内予選として、平成25年度も支部等活動に協力し推進する。

②日本棋院支部対抗戦 都道府県大会

各県の大会・行事の中で開催し、地域間での親睦・交流を深めることを目的にまた、支部の活性化となるよう推進する。

(6) 全国規模イベントへの参加

「ねんりんピック健康福祉祭」は、10月27日～28日に高知県土佐市で開催される。生涯学習、文化向上、健康福祉への一助として参加、協力を行う。

(7) その他大会等

1月5日を「囲碁の日」とし、東京本院、関西総本部、中部総本部で打ち初め式を開催する。棋士による記念対局や指導碁等、囲碁ファンの交流の場となるように、また棋力向上につながるような催しを実施する。

6-3 世界アマチュア囲碁選手権戦の開催等

(1) 第34回世界アマチュア囲碁選手権戦（宮城・仙台大会）

1979年に第1回大会を東京で開催以来、世界の囲碁ファンの増加とともに今回で34回目を迎える。

今回、被災地である仙台市で開催する本大会は、人種、宗教、言葉を超えてコミュニケーションを図ることが出来る「囲碁」を通して国際交流並びに東日本震災後の「日本の今」を世界に発信するという重要な役割を担う、意義のある大会として開催する。

開催期間は、8月31日前夜祭、9月1日～9月4日の5日間の日程で開催され、参加予定は、73カ国地域、73名の選手を予定。

(2) その他アマチュア国際大会への参加、国際交流の支援及び後援

7 表彰

棋道の研鑽、囲碁普及と発展に顕著な貢献を頂いた方々及び日本囲碁界の将来を担う棋士を対象にその栄誉をたたえ表彰する。

(1) 大倉喜七郎賞

日本棋院の生みの親、故大倉喜七郎氏の遺徳をたたえ昭和39年に創設。棋士、アマチュア、国内外問わず、囲碁普及に特に功労のあった方を表彰する。

(2) 秀哉賞

21世本因坊秀哉名人の業績を永く記念するため昭和38年に創設。囲碁界において顕著な成績を収め、将来が嘱望される棋士を表彰する。

(3) 囲碁殿堂表彰

日本棋院創立80周年記念事業として、囲碁殿堂資料館の発足とともに創設し、囲碁史上に多大な業績をあげ、現在の囲碁の隆盛に貢献した方を顕彰（殿堂入り）する。

(4) その他、棋道賞、普及功労賞、普及活動賞、優秀支部表彰、特別功労賞、土川賞等の表彰を行う予定。

8 囲碁関係情報提供

日本の伝統文化である囲碁を次代に継承していくことは、日本棋院にとって大切な使命と認識のもと、出版物、あるいはインターネット上に囲碁文化・技術等に関する情報を発信する。

(1) 雑誌、新聞の発行

①月刊「碁ワールド」

中級者から有段者向け月刊誌として、棋戦解説を中心にグラビア、講座、読み物、海外ニュースなどバラエティーに富んだ内容を掲載する。

②月刊「囲碁未来」

入門から初段を目指す方を対象として、棋力向上のための布石、定石の問題、講座、囲碁情報等を掲載する。また囲碁未来教室のテキストとしても活用する。

③「週刊碁」

週刊碁は、囲碁界のニュース速報を主眼にタイトル戦特集、棋士の動向、海外情報、アマ大会や一般ファンを対象にした催し案内、上達講座、認定問題など、幅広い層を意識した多彩な構成とし、国内外の囲碁愛好者へ情報を発信する。

④「囲碁年鑑」

月刊碁ワールドの臨時増刊号として5月に発行予定。国内棋戦、国際棋戦、アマ大会、囲碁界の記録集、棋士名鑑など、平成24年一年間の囲碁情報をまとめる。

(2) 電子媒体による情報提供

① 日本棋院ホームページ

日本棋院ホームページでは、最新囲碁ニュース(棋戦結果速報)やイベント情報、棋士プロフィールなどの囲碁情報をはじめ、これから囲碁を始めたい方のための簡単入門ページ、英文ページなど国内だけでなく、世界の囲碁ファンに向けてタイムリーな情報提供を行い、囲碁普及に努めている。また、事業計画、報告や定款など公益法人として必要な情報公開を行っている。

②「幽玄の間」

「幽玄の間」では、対局の他に様々な機能を展開した情報提供を行う。

平成25年度は、昨年に引き続きスマートフォン、その他の専用端末向けサービスへの展開も予定している。

- ・棋戦や主要なアマ大会の手順中継を行い、トップ棋戦の棋譜を配信
- ・「幽玄の間」で中継された棋譜のアーカイブ提供
- ・同好会機能による囲碁ファン同士の交流

③ 情報会員

情報会員には最新棋譜から過去の名局まで、40年以上に亘る、約4万局の棋譜データを提供している。また、動画講座、ためになる棋譜解説、早わかりタイムトライアル等の講座、入門初級者向けのページなど様々なファン層に対応した情報を提供する。

④ 碁バイルセンター

「碁バイルセンター」では、携帯電話で手軽に囲碁情報や、棋譜鑑賞、さらには対局まで楽しめ、入門コンテンツや囲碁問題を提供し、どこでも囲碁が楽しめるコンテンツを提供する。

⑤ 情報端末向けサービス

携帯電話(ドコモ、au、ソフトバンク)向けにタイトル戦の生中継サービスを実施している。観戦は一部を除き無料。囲碁ファンに手軽にタイトル戦を楽しんでいただけるように、スマートフォンでの展開も検討する。

⑥ 電子書籍アプリ

週刊碁、月刊碁ワールド、囲碁未来を電子書籍アプリ「i碁BOOKS」で配信。

9 囲碁殿堂資料館

平成16年11月15日に開設し、囲碁殿堂入りの方々を顕彰するとともに、囲碁の歴史、囲碁文化についても広く一般に紹介する。また、関連図書、由緒ある囲碁用品の展示、歴史に残る名棋譜の展示を行う。

10 各拠点での活動

日本棋院の各拠点においては、地域性を活かしながら東京本院と一体になって、本年度の事業計画を策定し、積極的に活動推進する。

10-1 八重洲囲碁センター

①東京駅・八重洲北口という地の利を活かし、全国の囲碁ファンへ総合的なサービスセンターとしての役割を担っており、棋士による指導碁、盤石や囲碁用品、書籍の販売、級位者から有段者までの囲碁学校の開催を行う。

貸室では、各種囲碁大会、碁会に利用頂く。

②八重洲囲碁センターの状況は、入場者数の減少、過重した賃借料等管理費の負担により、日本棋院の財務に影響を及ぼしている。

そのため、管理費負担の軽減及びスペースの有効活用のあり方を検討するとともにセンター移転により利用者が減少することがない様にする事等を勘案し、有楽町「東京交通会館」へ移転する。同会館への移転は、平成25年6月を予定しており、日本棋院の新しい拠点として、お客様に満足いただけるセンターとなるよう心機一転した運営を行う。

10-2 関西総本部

大阪市北区に拠点を置く関西総本部は、近畿六府県(大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山)と広島、岡山両県を統轄する。

(1) 各種大会の開催及び後援(主なイベントは以下の通り)

- ・夏休み子ども囲碁フェスティバル
- ・歳末たすけあいチャリティ囲碁まつり
- ・比叡山囲碁ゼミナール
- ・阪急電鉄納涼囲碁まつり
- ・定例段級位認定大会(年5回)
- ・級位者大会(年6回)

(2) 会館事業の充実

ホールでは、一般対局のほか棋士による指導碁、級位者の日や有段者の集い、囲碁学校、入門教室を開催。貸室では、法人各種団体の利用を促し、より快適にご利用頂けるよう努める。

(3) 大学及び子ども達への囲碁普及活動の充実

関西圏の各大学に囲碁講座の働きかけを積極的に行い、若者層への普及を行う。

また、昨年から関西財界の協力を得て関西棋院と共催して行っている「関西学校普及事業（小学校こども囲碁入門教室）」を引き続き地元の囲碁協会と協力して推し進め、今後、市の行政や教育委員会の理解を得ながら、関西の公立小学校の総合学習の時間やクラブ活動に囲碁授業を導入して頂けるよう努める。

また、各地区の子供大会を一層充実させるとともに、すでに小中学校等で行っている囲碁教室への協力や普及指導者への支援等、関西のこども達への普及をより一層拡大させるように努める。

10-3 中部総本部

名古屋に拠点を置く中部総本部は、中部七県（愛知・岐阜・三重・福井・石川・富山・静岡県天竜川以西）を統轄する。

(1) 各種大会の主催等（主なイベントは以下の通り）

- ・囲碁ゼミナール
- ・東海地区朝日アマ団体十傑戦
- ・ジャンボ団体戦
- ・中部こども級位者大会
- ・会員と棋士囲碁のつどい
- ・愛知県・江蘇省青少年囲碁交流
- ・早春囲碁の集い

(2) 中部総本部の棋戦等の実施（新聞掲載）

中日新聞社主催「第54期王冠戦」（中部総本部棋戦）

中日スポーツ主催「プロ・アマお好み対局」

(3) 指導碁・囲碁学校・イベント

①指導碁は、平日1名、土・日曜日は1～2名の棋士を配し、充実を図る。

②院内イベントの充実を図る。

- ・「10 アンダーの日」
- ・「級位者の日」、「有段者の日」
- ・「Happy 級位者の日」、「Happy 有段者の日」

③入門から初級までの一貫したステップアップ講座、講習会、全13コースの内3コースに午前の部を増設し、囲碁ファンの要望に応える。

(4) 普及活動

- ・中部地区の囲碁愛好家からの寄付により、中部青少年普及囲碁基金を設立し、中部地区の高校生を中心とした青少年の囲碁普及活動の推進に努める。
- ・PTA及び地域ボランティアの協力を得て、小学校の放課後授業への導入を進める。また、中部地区の大学囲碁授業導入に向け積極的に働きかけ、広く囲碁の普及に努める。

Ⅱ 収益事業

1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業 1）

(1) 免状発行

段級位認定大会、紙上認定等で認定された段級位に基づき、免状を発行する。

免状は、棋力の証明となるのもので、棋力向上の励みとなるよう 3 級から八段までの免状を発行する。免状には、審査役である棋士の署名がなされる。

(2) 普及指導員認定事業

囲碁愛好者の拡大と入門・初級者への指導者資格認定として、初段以上の免状保持者に囲碁普及指導員申請の権利を、六段以上の高段位免状保有者には、県師範、公認審判員を申請する権利を付与する。公認審判員の認証には、公認審判員講習の受講と書類審査を行う。

2 不動産賃貸事業（収益事業 2）

東京本院では地下 1F 部分を、中部総本部では 1F、4F～6F 部分を他法人に賃貸する。

3 販売品、書籍事業（収益事業 3）

(1) 販売事業

東京本院、八重洲囲碁センター、関西総本部、中部総本部の各拠点に売店を設け、碁盤、碁石、碁笥などの対局用具、各種囲碁用品、囲碁書籍の販売を行う。また、全国各地でも購入できるよう、通信販売センターの設置や、インターネットを利用したのオンラインショップでの物品販売も実施する。

(2) 書籍製作販売

入門から高段者まで棋力向上の講座物、問題集、棋譜解説、定石、手筋、死活詰碁、事典、囲碁の歴史書まで、さまざまな囲碁に関する単行本を発行。現在 150 点の書籍を日本棋院各拠点の売店、全国の書店で販売する。

また、日本棋院が発行した各種書籍を電子書籍アプリ「i 碁 BOOKS」で配信。囲碁アプリ「詰碁マスター」、「黒猫のヨンロ」で、過去に日本棋院の出版物に掲載した問題を配信する。

Ⅲ 管理部門

1 受取寄付金

受取寄付金に関して、公益財団法人移行による税制上の優遇制度の理解促進に努め、受取寄付金の維持・拡大を図る。

また、海外棋戦で戦うナショナルチームを支援・応援する個人による特定寄付金を、平成 25 年 4 月より創設し広く支援を募ることとする。

2 コンプライアンス

公益法人として、コンプライアンス行動規範に則り、定款による執行体制、定款及び諸規程に沿った活動に努めるとともに、透明性の向上やガバナンスの確立に注力する。

内部統制の強化については、「取組み方針・計画」を策定し、きめ細かなコンプライアンス強化を図る。